

(代表質問)

質問日	令和5年9月28日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	市民クラブ	議席番号	26	氏名	鈴木 真人
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 財政について	<p>5月議会において、令和7年度以降の次期中期財政計画に対する基本的な考えの表明はなかったものと認識している。一方で、9月下旬には中野市長の強い意思を込めた令和6年度の当初予算編成方針が示される予定となっており、その編成方針の延長線上に次期中期財政計画の基本的な考えがあるものと思われる。</p> <p>そこで、令和6年度の当初予算編成方針に込める強い意思並びに令和7年度以降の次期中期財政計画の基本的な考えについて、スケジュールも含め伺う。</p>						中野市長
2 子ども・子育て支援について	<p>5月1日の市長就任記者会見において、「まち」「ひと」「しごと」の創生の中にあって、とりわけ重要となるのは子ども・子育てへのしっかりとした支援と表明され、5月議会にて子ども医療費の無償化を6歳まで拡充する方針が示された。明石市では、こどもを核としたまちづくりを理念に掲げ、5つの無料化に代表される施策に加え、様々な子どもへの支援施策を実施しており、若い人の人口も増え、出生率も向上し、町なかのにぎわいが増えるなどの複合的な成果が表れている。そのため、本市にとっても子ども・子育て支援は重要な取組であると考えている。</p> <p>そこで、来年度以降における子ども・子育て支援に対する市長の考えを伺う。</p>						中野市長
3 こども基本法への対応と子どもや若者の社会参画について	<p>令和5年4月にこども基本法が施行され、子ども施策を進める際に子どもの声を反映させることを義務としており、子どもの参画と意見反映は重要となっている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) こども基本法の基本理念において、「すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと」とされている。2月議会において、本市における子どもの権利条例の制定に向けた調査を始めるとの答弁があったが、今後検討を進めていく子どもの権利条例はどこに重点を置くのか伺う。</p> <p>(2) 子どもの参画と意見反映を図るため、市民が市政に参加する仕掛けの一つとして、若者の声を政策やまちづくりに反映させるユースカウンスル(若者会議)の設立について伺う。</p> <p>(3) 札幌市が目指すコミュニティ・スクール(案)の基本的な考え方において、こども基本法に沿って子どもの意見</p>						<p>中野市長</p> <p>吉積こども家庭部長</p> <p>奥家学校教育部長</p>

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>についても学校運営に反映させることが検討されている。</p> <p>本市においても、こども基本法の基本理念に沿って、学校運営協議会に子どもの参画と意見反映していく取組について伺う。</p>	
<p>4 発達障害に対する早期の支援について</p>	<p>発達障害者支援法では、ライフステージに応じた支援の一つとして乳幼児健診による早期発見、早期の支援につなげていくことが重要としている。本市では、友愛のさと診療所、子どものこころの診療所を設置し、療育支援を実施している。一方で、子どもの発達障害などを心配し早期受診への要望が高まっている状況にある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 発達支援広場（たんぽぽ広場）も早期発見、早期支援の役割を担い、乳幼児の発達に寄与しているが、一方で参加待機者が発生しており、たんぽぽ広場の拡充が必要と考える。現時点における成果と課題、今後のたんぽぽ広場の拡充について伺う。</p> <p>(2) 友愛のさと診療所、子どものこころの診療所の初診申込みから診察に至るまでの待機期間の状況と現状の課題について伺う。</p> <p>(3) 診察までの待機期間の短縮に向けて、今後の目標と対策について伺う。</p>	<p>吉積こども家庭部長</p> <p>鈴木健康福祉部長</p> <p>〃</p>
<p>5 子育て支援ひろばについて</p>	<p>子育て支援ひろばは、妊婦や子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりができる場所として、市内25か所、出張ひろば25か所を加えると市内50か所で開設されている。そして、妊婦支援、発達支援、外国人支援、多世代支援、長期休暇支援など地域の事情や利用者のニーズに応じており、子育て支援の重要な取組となっている。一方、横浜市では地域子育て支援拠点事業での一時預かり事業が行われており、本市においても一時預かりを望む声がある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 子育て支援ひろばをさらに多くの方に利用してもらうことが重要だと思うが、子育て支援ひろばのこれまでの成果、現状の課題とその対応について伺う。</p> <p>(2) 一時預かり事業について</p> <p>ア 市の事業として実施している一時預かり事業の現状の課題と今後の対応について伺う。</p> <p>イ 子育て支援ひろばでの一時預かりの実施について伺う。</p> <p>(3) 共働き家庭への支援として、子育て支援ひろばの土・日曜日開催の拡充について伺う。</p>	<p>吉積こども家庭部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
6 庁内におけるデータ利活用の推進について	<p>神戸市では、職員の生産性を高めるために職員自らが行政データを分析・利活用し、E B P M (エビデンスに基づく政策立案) を推進している。本市における行政データの利活用について伺う。</p>	水谷デジタル・スマートシティ推進部長
7 流域治水対策について	<p>温暖化に伴い降水量が増大し、線状降水帯発生時には現状の流下能力の限界を超え、内水氾濫や越水などの水災害が発生している。そのため、多くの関係者が協力した対策が必要な流域治水では、国、県との連携が求められている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松市土木防災情報システムによって市内を流れる河川の水位等の情報がリアルタイムで発信されており、豪雨時に市民が雨量や川の水位を確認するのに有効な手段となっている。一方で、近年は局所的な豪雨のため身近な河川の水位情報を求める声があり、水位観測箇所を増設が求められているが、その予定等について伺う。</p> <p>(2) 岡山市では地中に管渠を埋設し雨水を取り込むことで、浸水被害の軽減に効果を上げている。浸水被害軽減に向けて、雨水貯留管など地下貯留施設の整備について伺う。</p> <p>(3) 平成16年に策定された県の安間川河川整備計画では、浜松環状線万斛橋上流がその整備計画に入っていない。一方で、万斛橋の川幅がカルバートで制限されているため、橋の上流部で滞留が生じ水災害の原因の一つになっている。このため、県は万斛橋上流部を整備範囲に加えた安間川整備計画の見直しを検討していると聞いているが、安間川に流れ込む西支線も本川への影響があるため県の計画と整合すべきと考えるが、いかがか伺う。</p>	伏木土木部長
8 インクルーシブな社会に向けて	<p>東京パラリンピック2020を通じて市民の障がい者スポーツに対する理解が深まり、関心が高まった。本市においても障がいの有無にかかわらず楽しめる様々なインクルーシブスポーツが行われ、インクルーシブな社会に向かいつつある。しかしながら、市民への周知や幅広い普及には至っていない状況にある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の施策としてインクルーシブスポーツへの関わり方を明確にすべきと考えるがいかがか伺う。</p> <p>(2) インクルーシブスポーツに触れる・参加する機会を増やすため、市内の障がい者スポーツ団体や障がい者が利用可能なスポーツ場を調査し、浜松市公式ホームページ等誰もがアクセスしやすい形で情報提供することについて伺う。</p> <p>(3) インクルーシブな社会の推進に向け、小・中高生や市</p>	嶋野文化振興担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>民が土・日曜日などの休日に各種のインクルーシブスポーツを通じて障がい者と交流する場の創設について伺う。併せて、本市が所有するゴールボール、ブラインドサッカー備品の有効活用の計画について伺う。</p>	
<p>9 教職員の人材育成について</p>	<p>教職員の年齢構成を年代別に見てみると、他の年代に比べて40歳代（中堅教員）が少なく、20歳代（若手教員）が増えている状況にある。このような年齢構成の中、近い将来、比較的若い年齢であっても学年主任等、学校運営上、重要な役割を担う教職員が増えてくることが予想される。教職員の多忙な業務の解消がなかなか進んでいない状況下で、勤務時間内に自己研鑽の時間を確保することも難しい。こういった現状を踏まえ、人材育成という観点から、教育委員会として今後どのようなフォローアップ体制を構築していくのか伺う。</p>	<p>奥家学校教育 部長</p>